



みなさま、こんにちは。

熱い夏もそろそろ終わりが見え始めていますね。毎年この時期になると気になって仕方がないものがありました。そう「高校野球」です。白球を追う高校球児のひたむきさ、素直さ、一生懸命になっている姿を見ると、こちらまで励まされます。私自身野球をやっていたこともあり、チームプレーの難しさ、自己の技術の向上、色々な経験をしたことを覚えています。

ということで、今回は技術に関しての普段お目にかかることのない裏側のお話をしてみましょう！！

すべては患者様のために

歯科医師も歯科衛生士も国家試験に合格して初めて「医師、衛生士」と呼ばれるのですが、合格するまでに学ぶことは基本だけです。卒業後、本物の臨床現場で学ぶことの方がはるかに多く、基本だけでは患者様の問題を解決し、良好な状態を維持していくことはできません。

昨今、良くも悪くもメディア等で取り上げられているインプラント治療や歯周外科、矯正治療等は口の中の失われた健康を回復し、QOLの向上を得るために大きな役割を担っています。ところがそれらの技術は、卒後何年も大学に残るか、研修会でトレーニングするより学ぶ手段はないとも言えます。私自身も10年以上、年間150～200時間、全国各地の研修会で著名なドクターから診断と技術について学び、トレーニングをしてきました。そこで、同じ歯科治療でも医院によってこんなにも違うのかと驚かされたものです。

そして今では研修会で他院のドクターに教える立場にもなり、地域社会のみならず、歯科医療の発展に貢献できたと考えています。これも全ては患者様に納得・安心・満足していただける医療を提供するため、年齢からくる体力の衰えを感じつつ、自分の心と体にムチを打って自己研鑽に励んでいます。

特に週末は過密スケジュールのため患者様にご迷惑をお掛けしておりますが、ご理解の程よろしく申し上げます。



また当院の他ドクター陣も院内では常に指導し、院外でも治療の技術・知識を得て患者様に還元できるよう積極的にセミナーに参加しています。

プロの集団であり続けたい

歯科衛生士として例外ではありません。患者様の口腔内を診る以上、衛生士としての責任を全うしなければなりません。そこで当院では週1回、診療後にドクター・衛生士、TC、受付も参加して症例検討会を行っています。

当院で働くスタッフが1つの症例に対して同じ診査・診断が出来る様に、



パノラマ写真や口腔内写真を見ながらディスカッションを繰り返し行い、正しい治療計画が立てられるように知識・診断力を養っています。また歯科衛生士としても各方面のセミナーに参加しレベルアップを図り、努力し続けています。



そして、一番大事なのが自主練習です。ドクター、衛生士を問わず、診療前・昼休憩・診療後など空いた時間を利用し、セミナーで学んだことや教わったことに対して診療に活かすための練習を行っています。身を持って体験する相互実習や感覚を掴むために反復練習等々、技術にはゴールがありません。



師(士)という名前が付く以上、プロとしての意識とその名に誇りを持ち、これからも自己の技術を追いつける、患者様を健康へ導くことの出来る、プロフェッショナルな集団でありたいと思います。